

様式1〔申し合わせ事項〕 【委員会、全協：共通様式】

令和 2年10月22日

総務建設常任委員会

委員長 伊藤 治 雄 様

東員町議会

伊藤 治 雄



研 修 報 告 書

研修期間	令和 2年10月13日（火） 【 1日間 】
研修（視察）先	桑名市
目的（テーマ等）	公共交通のあり方について ① 桑名駅周辺整備（現地視察） 本町住民の通勤通学等における乗り継ぎ利便性 等改善状況調査 ② 公共交通の現状（座学研修） 現存するモビリティシステムの改善等
資料添付の有無	有（事前質問に対する回答書）

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。



様式1〔申し合わせ事項〕：【委員会、全協：共通様式】

〔氏名： 伊藤治雄 〕

研修概要、内容、所感

視察概要（事前質疑事項と回答は資料のとおり）

① 桑名駅周辺整備（現地視察）

〔対応者；都市整備部駅周辺整備課 中西課長、伊藤主幹〕

公共交通の結節点としての桑名駅を中心とした整備はかねてからの課題であり、市民満足度アンケート調査でも公共交通は重要と考えているが現状は満足していない状況であった。そのため、まず桑名駅舎及び東西自由通路が完成したことで、利便性は向上した。

（⇒以降は所感）

⇒東員町の一般会計の年間予算額に匹敵する97億円が投資された施設として、今後、桑名市においては投資対効果が評価されると思う。しかし、本町から通勤通学で利用する方々の乗り継ぎ円滑化等利便性は確実に向上したと考える。

⇒東西の駅前広場の改修は必要不可欠であり、特に駅西広場の改修は面積的にも駅東よりも大きく、本町も含み駅西地域へのバス及び自家用車の利便性が向上する。そのためにも、更なる周辺アクセス道路整備が必要である。

⇒更なる利便性向上のため、三岐鉄道北勢線の北方向への延伸と西桑名駅舎改札口の改修を望む。

② 公共交通の現状（市役所にて座学研修）

〔対応者；市長公室政策創造課 MaaS 推進室 梅山室長、宮崎〕

2040年問題が指摘される中、少子高齢化や人口減少については全国の市町村が避けては通れない重要な課題である。

そのような中、桑名市においては MaaS 推進室を設置し、今後の公共交通のあり方を検討していることは特筆される。

⇒本町も高齢化が進展しており、運転免許諸返納者の増加等により生活に必要な移動手段の確保が大きな課題と考える。そのため、北勢線はもとよりオレンジバスの継続は必要である。

しかしながら、財政状況も厳しい中、投資対効果も考慮する必要がある。そのため、住民サービスの範囲と受益者負担割合のバランスを考え料金設定を行う必要がある。

⇒できればオレンジバスが集落地域の路地まで運行し、バス停までの歩行距離の短縮を図ることができれば最善であるが、道路幅員等の状況からして不可能である。現存のバス停と自宅玄関口までのラストワンマイル問題をどのように解消するかが課題となる。そのため、オン

デマンド交通など新しい交通システムの導入が必要である。

事前質問以外の主な質疑事項

- ・コミュニティバスの利用実績の少ない地域でのデマンド乗合タクシーを運行した理由はなぜか。
車でしか移動できず、なおかつ利用が少ない地域（長島地区）を対象に実施している。バスの本数も少なく負のスパイラルを繰り返すだけであった。
結果として経費の節減に繋がっている。（2,600円/日の節減）
費用対効果からして判断すると成功したと考える。
今後も広範囲に対応したい。
- ・東員町では買い物等地域の自治会がボランティア的にバスの運行を行っているが、そのような手法はあるのか。
まちづくり支援という形で補助している。共助という支援は良い手法と考える。
- ・移動店舗・移動診療所の検討はしているのか。
直接的な話し合いはしていないが、サービスの移動としては良いと思うので、できれば広域連携で考えたい。